一緒にシャボン玉で遊ぼう

ボールプールにボルダリングも

砂場で何ができるかな

巻頭特集

地域の宝ものを育む

岐阜羽島ボランティア協会 かみなり村の子育て支援

新型コロナの影響で、身近な誰かに相談する機会が減り、
子育ての悩みを一人で抱えている人はきっと少なくないはず。
そこで今回は、わがまちで子育て支援に取り組む
岐阜羽島ボランティア協会かみなり村の活動を紹介。
子育て中のママ＆パパの心強い味方に
なってくれるはずですよ！

運動能力を伸ばすサーキット

外には遊具がいっぱい

子どもの居場所として修復が進む気動車

朝の会で元気にあいさつ

共働き世帯やひとり親の子育てを力強くサポート

岐阜羽島ボランティア協会は、1981年に羽島市ボランティア活動連絡協議会として発足。その後、1999年にNPO法人岐阜羽島ボランティア協会として法人化し、さらに2014年には社会福祉法人の認可を取得しました。現在は、羽島市正木町内に点在する施設で、障がい児者支援や子ども・子育て支援などさまざまな福祉関連事業に取り組んでいます。

同協会が2007年から運営しているのが「子どもサポートセンター」と「病児病後児保育事業」と「ファミリー・サポート・センター事業」の2つの事業を行っています。

羽島市の委託を受けた病児病後児保育事業「病児保育室かみなりくん」では、共働き世帯やひとり親家庭などを対象に、保育園や幼稚園に預けるのが難しい体調不良や病気の子どもを、専用の病児保育室で預かっています。

「一般的に病児病後児保育の施設は、小児科の病院に併設されるケースが多いですが、私たちの施設は全国的にも珍しい単独型の病児保育室として誕生。できる限り断らない病児保育室を目指して運営してきました」と所長の杉原真奈美さんは話します。新型コロナの感染拡大以降は、確定診断がついた子どものみに受け入れ基準を変更した結果、思うように預かりができず、利用者はほぼいない状態に。ただ最近では、自宅でのリモートワークからオフィス勤務へと徐々に働き方が戻り始め、受け入れ基準も緩和したため、少しずつ利用者数が回復してきていると言います。「利用料は1日2000円。非課税世帯・多子世帯の方は減免制度もあります。お困りの方はご相談ください」と杉原さんは声をかけます。

一方、ファミリー・サポート・センター事業を展開する「はしま広域ファミリー・サポート・センター」は、育児の援助を受けたい人と、援助したい人が、互いに会員となって助け合う会員組織です。羽島市・岐南町・笠松町に在住・在勤している人が利用でき、2007年当時に200人ほどだった会員数は、現在700人以上にまで増加しています。

援助の内容は、休園日等の託児や園、塾、習い事の見守り送迎、出産後の上の子どもの保育など、多岐にわたります。担当者の浅野珠美さんは、「『里帰り出産ができない』『実家や親せきが近くにおらず頼れない』といった家族からのご相談が増えており、心身両面からサポートできるように努めています」と笑みを見せます。

子どもの発達の悩みなどを気軽に相談できる場を提供

同協会ではこのほかにも、児童発達支援／放課後等デイサービスを展開する「かみなりくん」や、羽島市の地域子育て支援拠点事業「子育てひろば かみなりくん」などを運営。子どもの発達や障がいに関する悩みにも寄り添っています。

「かみなりくん」は身体・知的・精神障がい、難病の児童を対象に、日常生活の支援やレクリエーションなどを通じて、一人ひとりの生きる力を育む施設です。

「大人数のお子さんたちを、遊びを通じて温かく見守っているのがこの施設の特徴です」と教えてくれたのは、かみなりくんで勤務して5年目の支援員・堀百花さん。入職3年目の支援員・清水彩夏さんも「子どもたちが懐いてくれるので私たちも楽しいです。職員との距離が近いのが何よりの魅力」と笑顔を浮かべます。笑いの絶えない安らぎのある環境づくりに努め、穏やかな心で生きがいの持てる生活ができるように支援しています。

「子育てひろば かみなりくん」では、障がいの有無に関わらず、子育て中の家族が気軽に集える場を提供しています。おもちゃや絵本で遊んだり、ダンスやリトミックをしたりするほか、誕生日会、クリスマス会といった行事なども開催。子育ての悩みや不安を語り合い、気軽に集える場として多くの親子が利用しています。

現在は、新型コロナの感染防止の観点から、行事はすべて中止に。担当者の南谷麻紀苑さんは、「予約なしで利用できますので気軽に足を運んでみてほしいです。お子さんの発達に関するご相談にも応じていますので、ぜひ声をかけてください」と呼びかけます。

すべての子どもは大切な宝 地域のみんなで育てる心を

かみなり村拠点の管理者・松尾尚美さんは、「以前は毎月のように施設を開放して『かみなりマーケット』というイベントを開催していました。かみなり村北館では、地域の方々に飲食も楽しんでいただいていましたが、新型コロナの感染拡大以降は開催ができなくなって……」と残念がります。それでも今年の秋には、JRコンテナを活用した販売所「こどもの駅」をオープンする予定。利用者による手づくりグッズや新鮮な野菜などを販売し、地域の人たちとの新たな交流の場にしていく考えです。

「かみなり村では、障がいがあってもなくても、子どもと家族がともに生き、幸せに暮らす地域づくりを目指しています。すべての子どもは、社会の大切な宝です。家族だけでなく地域のみんなで育てるという気持ちを、たくさんの方に持っていただけるとうれしいですね」

なぜ「かみなり村」なの？

岐阜羽島ボランティア協会では、施設が点在する地域一帯を総称して「かみなり村」と呼んでいます。理事長の川合宗次さんが電気工事の仕事のかたわら、1986年に「おもちゃ図書館」を始めた際、その名称を「いたずらな子ども」をイメージした「かみなりくん」にしたことに由来しています。

子育てでお困りの方はお気軽にご相談ください！

子どもサポートセンター所長 杉原真奈美さん（右）
はしま広域ファミリー・サポート・センター担当 浅野珠美さん（左）

子どもたちが楽しく過ごせるように見守っています！

児童発達支援／放課後等デイサービス「かみなりくん」
支援員 清水彩夏さん（右） 堀百花さん（左）

information　社会福祉法人 岐阜羽島ボランティア協会

かみなりくん・子育てひろばかみなりくん
TEL:058-393-2608
子どもサポートセンターかみなりくん
○はしま広域ファミリー・サポート・センター
TEL:058-391-1228
○病児保育室かみなりくん
TEL:058-394-0112

WEB　Face book

かみなり村のシンボルのひとつ ロンドンバス

文／平井基一　デザイン／ABBEY ROAD